

 評価のポイント**CL-1.看護実践能力：ニーズをとらえる力**
[14-1] 消化器系の解剖生理とフィジカルアセスメント**1. 半消化態栄養・消化態栄養・成分栄養の違いを説明してください。**

窒素源がタンパク質のままであるのが半消化態栄養剤で、ペプチドまで分解された栄養剤が消化態栄養剤、アミノ酸まで分解された栄養剤が成分栄養である。

2. 腹部膨満の主な原因を列挙してみましょう。

- ・ Flatus (鼓腸)
- ・ Fluid (腹水)
- ・ Fetus (胎児)
- ・ Faces (宿便)
- ・ Fat (肥満)

3. 末梢性と中枢性嘔吐について説明してください。

末梢性嘔吐は消化器系、循環器系、眼疾患、耳鼻科疾患、泌尿器疾患、婦人科疾患が原因である。
中枢性嘔吐は脳圧亢進や脳循環障害、中毒、代謝異常、内分泌疾患、精神的要因である。

4. 筋性防御について説明してください。

筋性防御は消化管穿孔、虫垂炎、胆嚢炎などの壁側腹膜の炎症を示唆し、腹膜炎や腹腔内出血などで見られる症状で、腹部を触診した際、痛みで腹筋が不随意に緊張し硬くなるのが筋性防御である。

5. 反跳痛について説明してください。

内臓の炎症が波及した腹膜が急激に動かされることで痛みを生じるのが反跳痛、ブルンベルグ徴候ともいう。腹壁を指の末節手掌側で2~3秒静かに圧迫する圧迫していた指を急に離すと跳びあがるような痛みを表現するのが反跳痛である。腹膜炎の症状である。